



受けるな危険！

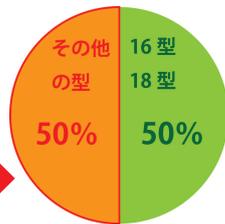
けい 子宮頸がんワクチン

(ヒトパピローマウイルス感染症予防接種)

子宮頸がんで何？

子宮の入口付近にできるがんです。エッチするときに感染するヒトパピローマウイルス（＝HPV）がその原因とされています。このウイルスの感染を防ぐ予防接種が2013年4月から国によって勧められています。

予防不能！ →



◆日本の子宮頸がん患者から検出されるHPVの型↑

出典：国立感染症研究所「ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンに関するファクトシート」平成22年7月7日版

打っても予防はできません！

ヒトパピローマウイルスにはたくさんの種類があり、がんを引き起こすものだけでも15種類もあります。でも、このワクチンで感染を防ぐことができるのはそのうちわずか2種類だけ（16型と18型）。日本人の子宮頸がんのうち、この2種類によって引き起こされているのは50%と考えられています。つまり、このワクチンは子宮頸がんになる確率を半分には減らすだけなのです。ワクチンで子宮頸がんを防げるわけではないので、正式名称は「子宮頸がん予防ワクチン」ではなく、「ヒトパピローマウイルス感染症予防接種」というのです。

危険！副作用がたくさん！

これまで日本でこのワクチンを受けた中に、障害が残ったり入院したりするような重い副作用が起こった人が少なくとも878人以上いることがわかっています※1。1年以上学校に通えない子や、学校に行けたり行けなかったりで留年してしまう子どももいます。接種後に死亡した子ども1人います。アメリカでは接種後に死亡した子が130人以上にのぼっています※2。そんな危険をおかしてまでワクチンを打つ必要などどこにもありません。※1. 2009年12月の販売開始から2013年3月31日までに厚生労働省が把握している件数。出典「子宮頸がんワクチン（サーバリックス）の副反応報告状況について」および「子宮頸がんワクチン（ガーダシル）の副反応報告状況について」厚生労働省2013年6月14日 ※2. 出典：米国ワクチン有害事象報告システム（VAERS）

生理が止まる
不正出血する

金づちで殴られる
ような頭痛が続く

痛みに
耐えられない
殺してほしい

胃が飛び出す
かと思うほどの
吐き気

突然目が
見えなくなる

体がビクビク痙攣する
のが何か月も続く

体中を次々と
痛みが移動する

髪がほとんど
抜け落ちる

全身の関節が
腫れ上がって
痛む

筋肉の力が弱って
歩けない
ペットボトルの
ふたも開けられない

計算できない
記憶できない

毎日のように
気を失って
倒れる

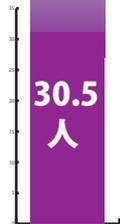
※症例は「全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会」に寄せられた声より

「絶対にうってはいけません。効きません。うたないからと言って失うものは何もありません。一旦副反応が生じたら人生がめちゃくちゃになります。」 宮城県さとう内科循環器科医院 佐藤荘太郎医師

副作用の発生率はダントツ

1回の接種で重い副作用が起こる確率はインフルエンザワクチンの47倍にもなります※。1人が3回接種することを考慮すると、重い副作用に苦しむ人が10万人当たり30.5人、約3300人に1人以上発生する計算です。

◆HPVワクチンによる重篤な副反応発生率（3回接種完了の場合）
（10万人当たりの人数）



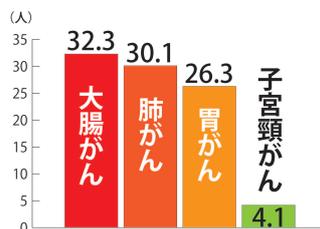
埋もれている例もあるから、ホントはこの数倍多い可能性も！

※出典：参議院厚生労働委員会 2013.3.28 はたともご議員質疑
←グラフ出典：「子宮頸がんワクチン（サーバリックス）の副反応報告状況について」および「子宮頸がんワクチン（ガーダシル）の副反応報告状況について」厚生労働省 2013年6月14日より、1人が3回接種することを前提として計算。参考：
http://vaccine.luna-organic.org/?page_id=803

もともと珍しいがん

子宮頸がんで亡くなる人は年間女性10万人当たり4.1人程度。大腸がんや肺がん、胃がんなどと比べると、決して多くありません。

◆日本女性10万人当たりの死者数（2011年）



出典：独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報サービス

患者の多くは中高年

子宮頸がんで亡くなる人の多くは中高年です。一方、このワクチンは12歳～16歳の女の子に接種が勧められていますが、ワクチンの有効期間は9.4年までしか確認されていません。15歳で接種したとすると確実に効果があるのは24歳まで。その先の効果はわかりません。しかし24歳までに子宮頸がんで亡くなる人は今の日本ではゼロです。つまり接種で確実に得られるメリットは実は何も保証されていないのです。

◆子宮頸がんによる死者数（2011年）



ワクチンの効果がある年齢では、そもそも誰も死んでらんぞ！



なぜ子どもに接種？

既にウイルスに感染している人には効果がないばかりか、逆にがんになる危険性が高まるからです。一度でもエッチしたことのある人は感染している可能性があるため、打たないほうがいいのです。



がんを防ぐのは免疫力

ヒトパピローマウイルスはありふれたウイルスで、感染してもほとんどの場合は自然に排除されます。感染してもがんに進むのは千人中わずか1人か2人。がん化を防ぐポイントは免疫力を高く保つことです。日本の気候風土にあった自然な食事や、早寝早起き、適度な運動などがその基本となります。



検診を受ければ確実に

20歳からは1～2年に1回、無料または低料金で市区町村の子宮頸がん検診を受けることができます。子宮頸がんになる前兆の段階で見つけることができるので、その部分を切り取ってしまえば、子宮頸がんを予防することができます。病院によっては日帰りでも済むほどの簡単な手術です。

自分の体は自分で守る

そもそもエッチしなければ感染しないので、軽い気持ちでエッチしたりしないことも予防につながる重要なこと。大切な自分の体、自分でしっかり守りましょう。あなたを守るのは、ワクチンではなく、あなた自身なのです。

もっと詳しく知りたい人は…… **サルでもわかる子宮頸がんワクチン** ▼ で検索！ <http://vaccine.luna-organic.org/>

または『こんなにあぶない子宮頸がんワクチン 少女たちの体を守るために』安田美絵著（合同出版）を読もう！

チラシ作成日 2013.7.16